

# はくぼく

No 1 8 4 2012 - 2 - 23(金)

発行責任者 三 浦 眞 吾

事務局 吉 田 朝 夫

釧路市美原3丁目57-4 電話36-7426

## 多喜二を語るつどい 終了のお礼

今年度の『小林多喜二を語るつどい・くしろ』は、二月四日(土)、生涯学習センターを会場に開催され、二八七名という、会場をほぼ埋め尽くす参加者を得て大成功裏に終了することができました。

これも一重に、協賛金をお寄せいただき券の普及にご協力いただいた諸団体の皆様と、ご後援いただいた釧路市教育委員会、報道機関の皆様のご支援の賜物と深くお礼申し上げます。五年前、多喜二の生涯を描いた『早春の賦』の演出・出演者として来釧された米倉齊加年氏の講演は、聞く人に深い感動と勇気を与えてくれた講演でした。「今迄の中で一番感銘を受けた。多喜二の本質をズバッと言いきり、わたしの心を奮い起こしてくれました。」「米倉さんのお話は、一貫して一般の普通人達に向けられていて、誰もが人間らしく生きて行ける世の中を願っていること、多喜二もその一人の人のために危険な時代に命を懸けて書いたという事が強く私の胸を打ちました。」「ちょっと年を重ね過ぎましたが、日々生きていくのがつらいですが、嘆いてばかりでなく前を見て進みたいと思いました。多喜二さんの本一冊でも読もうと思いました。」などのアンケートに寄せられた声がそれを語っています。(中略)

今回の「つどい」の参加数と、参加した人の声は、今後の集いの在り方に大きな示唆と展望を与えてくれたものと受け取っております。

今、私たちを取り巻く情勢は雇用、福祉、医療、教育、農業、文化、どれを取っても、深刻な危機の中にあります。

この危機を打ち破り、平和で豊かな日本をつくるため、私たちが前を見て進まねばとの思いを強く感じております。

実行委員長 福浦 寛

## 藤原忠夫先生を偲んで

古 田 義 仁

私は昭和四十七年に標茶町立沼幌中学校に赴任しました。当時、沼幌は小中併置校で、私を含め九名の職員がいました。その中に藤原先生もいたのです。

藤原先生は、小学五・六年生の担任で、全ての授業を一人でこなし、集団づくり、核づくり討議づくりなど生活指導に力を入れ、毎日一枚文集を発行することを目標に、エネルギーに仕事をこなししていました。その姿は我々新卒の私には、新鮮でまぶしいくらいでした。

その上、生徒会の指導や、生活指導のサークルの仕事、組合の仕事や、地域の老人クラブの世話役まで引き受けて、昼夜をたがわず頑張っていました。ところが、夜になると昼間の疲れ出るのが、テレビも電気もつけっぱなしで「ゴロ寝」をしてしまうことが多く、長屋のとなりの住人の私は「ゴロ寝」の気配を感じたら、彼の部屋へ行きフロンを敷いて寝かせて、テレビ・電気を消すことが多くなりました。その後、二人の長屋ぐらしは四年間続くことになり、藤原先生の「恥部を知る男」となっていました。当時の学校では、酒を飲んだり、碁を打つことも多かったですし、校長杯囲碁大会もあり、沼幌では四級を頭に、ほとんどの人が碁を打っていました。藤原先生は六級、私は七級のスタートだったと思います。

厚岸に転動してからは、釧路から通勤しながら、休みの日には善会所に通い腕を上げたとか心臓を悪くしてタバコを止めたとか、陶芸にこっている：：など、風のたよりに聞く程のつき合ひになりましたが、ある日偶然に、私の家の裏に「まさ子」という飲み屋があり、そこで出合ってから、時々席を同じくすることとなりました。その後、彼は市教組の書記長に就任し私は副委員長でしたので、ここでも彼にいろいろと教えてもらうことになりました。

これからやりたいことも多々あったと思いますが、藤原先生は逝ってしまいました。心よりご冥福をお祈り致します。

## 弔 辞

町内会の総会を終えて外に出たふと見上げると 真冬の虹  
どんよりした地平から立ち上がるように西の空にすっと真っすぐに青空へ  
青い宇宙の途中で突然切れて 虹  
北の方にももうひとつ  
同じように青い宇宙で途切れている  
虹はまるくつながらず  
こちらの端とあちらの端で  
途切れたままなのだ  
初めて見る美しくも不思議な光景だった

その夜遅く  
お前が死んだという知らせを受けた  
虹は釧路の方角だった  
なあ藤原君  
もう四十数年前の事だったな  
へき地の教師になりたてのおれたちは  
毎日のように集まり  
国の政治には遠く届かない地で  
政治を論じ経済を論じ社会の不平等を語り  
どうしてこんな子どもたちは貧しいのか  
時には恋とはなにか、愛とはなにかも  
まぜこぜにして  
哲学を語り人生論をぶつけあっていた  
お前も俺も  
お互いに力不足を知っていたからこそ  
あの牧草畑を渡る風のように  
自由気ままに朝まで語り合うことができた  
そうして決まって話の最後には  
いつのまにか子どもたちが登場していた

まったくお前が教え子のことを話すときは  
きらきらとした目をして  
いつも子どもたちが  
「世界の主人公」の話だった  
きょうはあの子が下ばかり見ていた  
何かあったのだろう  
足し算さえ良くできないあの子が  
理科の実験のときに驚くような答えを導いた  
きょうは一人の子の心配を  
みんながどうすべいか考えているんだ  
お前の話の結論は  
いつも子どものためだった

へき地の教師のお前の目は  
子どもの延長線上にある  
地域の暮らしにまで及んでいた  
学校の仕事から離れた家庭訪問を  
お前はいつもしていた  
親が幸せでなくて  
どうして子どもが幸せになれるんだ

ああ、藤原君よ  
俺の話は年寄りの昔話なのだろうか  
お前の声が聞こえるよ  
「おい、いい加減にしろよ  
お前の話はいつもこんなふうにな長すぎる  
きょうは俺の葬式なんだぞ」と

そうだね、きょうはお前の言うとおりの  
この辺で切り上げとくよ  
ただ最後に言っておきたいことがある  
俺はお前より十年も二十年も  
長生きするぞ  
お前がこの世に残した思いを  
ほんの少しだけ肩に背負ってね

2012年2月23日  
同志 藤原忠夫君へ

深見 迪

# 第二十七回交流囲碁・麻雀大会

今年度(二〇一一年度)末行事としての「第二十七回交流囲碁・麻雀大会」を左記の日程で開催いたします。年二回の「交流囲碁・麻雀大会」ですが、前回の十二月開催は、参加者不足で止むなく中止せざるを得ませんでした。年々、体調を崩し座ることが苦痛になって来ているとのことで、常連の人達の中にも呼びかけても「参加できない」との返事が返って来て、予定通りの計画が実施できない状況になっています。何とか最低の参加として、麻雀三卓、囲碁五盤の参加人数を確保したいと願っています。開催成功のため、是非、腰を上げて参加への申し込みをお願い致します。年二回懐かしい顔合わせの場として、お互いの近況を語る場としてご協力下さい。

- ・期 日 二〇一二年四月二十一日(土) 930~15・30
  - ・場 所 全教組教育会館和室
  - ・参加費 一五〇〇円(昼食代・景品代・その他)
  - ・申込締切 四月十五日(日) 期日厳守
  - ・申込先 ・三浦(37-2129) ・吉田(36-7426)
- 周りの会員に声をかけて、大会成立のためご尽力下さるようお願い致します。

## ゆきとどいた教育を求めるとして提出

昨年取り組んだ「ゆきとどいた教育を求めるとして提出」の集計921万筆を今月二日に、父母や教職員でつくる「ゆきとどいた教育をすすめる会」によって国会に提出したニュースが「しんぶん赤旗」に掲載されていました。で、抜粋して転載しました。

私たちがガンバッテ集めた七十二〇筆もこの中に含まれていると思うと感量はです。

皆さん本当にご苦勞様でした。

# ゆきとどいた教育に



「ゆきとどいた教育をすすめる会」から2011年度教育全国署名を受け取る田村智子参院議員(中央、以下右へ) 吉井英勝衆院議員、井上西士参院議員=2日、衆院議員面会所前

## 公立関係 124万人分署名提出

父母や教職員でつくる「ゆきとどいた教育をすすめる会」は2日、国会署名を国会に提出しました。衆の責任による30人学級の実現、私学助成制度の維持・拡充、給付型奨学金の創設などを求める「ゆきとどいた教育をすすめる会」は、国会議員に手渡しました。

### 計921万に

この日、提出した署名は公立関係分の124万8000人分、2月24日に全国私学助成をすすめる会が、私学助成全国署名796万6545人分を提出しており、計921万1300人分となりました。紹介議員は、私学助成全国署名が11会派と無所属の156議員、公立関係が7会派と無所属の47議員にのぼりました。全教の北村佳久委員

長は、「23年間にわたる署名運動が公立高校の授業料無償化などを現実させた」と強調。高校の無償化を見直す「完全国一」など実現を許さず、運動をさらに広げたいと叫ぶの

書記長の山口直之輔は「私立は高校無償化となっていない私学で、高校生、父母が立ち上がり、このことを紹介。私学助成の署名をPTAなどに広げているのへました。日本共産党の井上西士、田村智子両参院議員、吉井英勝、皇本岳志両衆院議員、民主界の衆院議員が署名を受

け取りました。

「ゆきとどいた教育をすすめる会」は同日、教育全国署名の提出に続き衆院議員2議員会館で国会の責任による被災地の学校の教育の復興や放射能被害回避の緊急対応を求め、「被災地のすべての子どもたちにゆきとどいた教育を求める」という署名約2万人分を提出しました。日本共産党の高橋ちづ子参院議員、自民党衆院議員秘書が出席しました。

民主教育をすすめる会、国民教育局長表、国民教育局長表、国民教育局長表をばじめ父母、教職員が被災地の学校の実情を説明。小学生の子どもがいる仙台市の松田智子(37)は、「校舎の補修が終わり、立ち入りの禁止の黄色のテープが張ってあって大きな地震のたびに心配。先生たちも放射能対策に追われています」と訴えました。

# 「ゆきとどいた保育と教育を考える」学習会のご案内

## こどもの瞳が輝く 「父母の願いと保育の実践」

- ・日時 四月二〇日(金) 午後六時三〇分
- ・会場 労働センター2階会議室
- ・講師 どんぐり保育園の保育士さん

上記のような学習会の案内が届きました。父母のみならず、子どもも新システムなどについても、皆さんと一緒に話し合ってみませんか。